

IPM実践指標(雨よけハウレンソウ)

山口県

管理項目	管理ポイント	点数	チェック欄		
			昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況
病害虫・雑草の発生しにくい環境の整備	ほ場の選択と改善	作物の栽培に適した水はけの良いほ場を選択する。排水の悪いほ場に作付けする場合はハウス周辺に明きよを設置する。	1		
	栽培ほ場周辺の管理	ほ場への雑草種子の持ち込みや雑草を発生源とする害虫の飛び込みを抑制するため、ハウス周辺の雑草防除に努める。	1		
	土壌消毒	土壌病害虫の発生が懸念されるほ場においては、植付前に土壌消毒を行う。	1		
	健全種子の確保	病害発生予防のため、消毒された種子を使用する。	1		
	適正品種の選定	べと病の発生を予防するため、抵抗性の高い品種を選択する。	1		
	は種作業	ハウス全体の水分が均一になるよう、灌水チューブ等を設置する。	1		
		健全な生育のために、適正な播種量、施肥量、灌水量を守る。	1		
		気候に応じて遮光し、ハウス内の温度を下げる。	1		
	ハウス内への害虫侵入防止措置	コナダニの発生を防ぐため、未熟な有機物の施用は避け、十分に熟成した有機物を施用する。	1		
		ハウス内へのアブラムシ類等の害虫の侵入を防止するため、ハウスを紫外線除去フィルムで被覆する。	1		
		ハウス内へのヨウガ、メイガ類等の害虫の侵入を防止するため、ハウス開口部に1mm目合い以下の防虫ネットを設置する。	1		
	作物の栽培管理	アザミウマ類等の害虫を捕殺するため、粘着トラップ(黄色)等を設置する。	1		
必要に応じて土壌診断を受ける。		1			
植え付けまでに雑草が発生した場合は、雑草の種子結実前に除草を行う。		1			
防除要否、時期の判断	ハウス内が多湿にならないように適切な灌水を行う。	1			
	病害虫発生予察情報等の確認	病害虫防除所が発表する発生予察情報やフェロモントラップ等を用いた地域での予察情報を参考にする。	1		
	病害虫状況の確認	前作でケナガコナダニが発生した場合には粒剤を散布する。	1		
ほ場内を見回り、病害虫の発生や被害を把握するとともに、気象予報などを考慮して防除の要否を判断する。		1			
前作や近隣の作物、ハウス周辺における病害虫の発生状況を確認し、病害虫の発生を予測する。		1			
防除	農薬の適正使用	作物の生育に合わせ、適切な使用量・散布方法を決定する。	1		
	農薬の選択	農薬を散布する場合には、風向きを考え適切な飛散防止を行う。	1		
		ハスモンヨトウ等に対して生物農薬(BT剤)を散布する。	1		
		天敵に影響の少ない殺虫剤を利用する。	1		
その他	農薬を使用する場合には、薬剤抵抗性の発達や薬剤耐性菌の発生を防止するため、同系統の薬剤を繰り返し使用しない。	1			
	ほ場の衛生管理	病害が発生した株は、発見次第、早急に抜き取って適切に処分する。	1		
	収穫後残さの処理(重要)	収穫後の残さ、特に残根は病害虫の発生・伝染源となるため、取り除き処分する。	1		
	作業日誌の記帳(重要)	病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等の栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1		
研修会等への参加(重要)	県や農業協同組合などが開催するIPM講習会等に参加する。	1			
		合計点数			
		対象IPM計			
		評価結果			